

令和7年度 自己評価表

(愛媛県立川之石高等学校)

学校番号(36)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
校訓の「自学・誠実・審美」を行動で示し、自分のためにも人のためにも心と力を尽くす、次のような生徒を育てます。 (ア) 自分の夢と希望を持ち続け、自らを鍛えながら人生を切り拓こうとするたくましさを持つ生徒 (イ) 何事にも丁寧に取り組み、自他を大切にしてお周りの人と力を合わせて生きることを楽しむ生徒 (ウ) 自然や人間のすばらしさに気付き、暮らしの中で喜びを見出し感謝の気持ちを忘れない生徒 (エ) 社会の一員としてふるさとをより良いところにしてようと努め、地域を愛し地域に愛される生徒	生徒一人ひとりの夢や希望を大切に、幅広い進路選択ができるよう多彩な普通科目と専門科目を設け、実践的・体験的な学習を多く取り入れて、生徒の「生きる力」を大きく育てます。 (ア) 夢実現のために好きなことを学びます。 (イ) 「新しい私」を見つけて自己実現を目指します。 (ウ) 地域と連携しながら専門的な学習を深めます。 (エ) ボランティア活動等によって自分を磨きます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
シグ ョラ ンデ ー・ユ ボエ リ	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合、7割以上。	C	校訓を軸とした教育活動に、全教職員の約7割が生徒の成長を実感できている。今後は残りの約3割の教職員と共通理解を深め、生徒の育成に努めたい。	校訓「自学・誠実・審美」を軸に、自己成長と郷土愛を深化させ、目標達成度8割以上を全教職員で実現していきたい。
学 校 経 営	重点努力目標達成への努力	重点努力目標及びマニフェストの数値目標を踏まえた教育活動を実践する。	A	地域と連携した教育活動が様々な場面で行われており、良好な教育活動が実践できている。	ICT機器を活用しながら、各科・課の連携を図り、円滑な学校経営に努めたい。
	地域と連携した教育活動の推進と特色ある学校づくり	地域と連携した交流活動を30回以上実施する。 A : 30回以上 B : 29~25回 C : 24~20回 D : 19~15回 E : 15回未満	A	総合探究Ⅱにおいて、地域と連携し研究を進めている。農務課では、ドローン講習会、専門学校菓子作り講座、小学生との農業交流など学校全体で、総計30回以上実施した。	来年度以降も活動できるように予算と時間の確保をしていきたい。
		「産業社会と人間」「総合探究Ⅰ」「総合探究Ⅱ」の学習活動を充実させる。	C	地域の方々や外部講師の協力を得て、学習を充実させることができた。	来年度も生徒自らが見つけた課題に対し、解決するための探究学習を実施したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教科指導	指導方法の工夫・改善と分かる授業の展開	学習指導法（チーム・ティーチングや少人数授業、習熟度別学習、ICT機器の活用）の工夫と改善に努め、生徒自ら学ぶ意欲を高める。	A	少人数講座によるきめ細かい授業や電子黒板・一人一台端末などICT機器を利用した授業ができている。	引き続き、少人数講座による個別指導の充実やICT機器を活用し、より効果的な授業が行えるようにしていきたい。
		社会人講師を活用した特色ある授業を推進する。（社会人講師活用授業年間80時間以上） A：80時間以上 B：79～70時間 C：69～60時間 D：59～50時間 E：50時間未満	A	社会人講師を活用した授業の実施時間数は80時間であった。社会人による講義等の実施により、教育内容の充実を図り視野を広げることができた。	社会人を活用した授業を実施することで、より専門的な知識・技術の習得を含め、視野を広げ、学習意欲の向上につなげていきたい。
	適切な評価の工夫	教科会を定期的に関き、評価規準を明確にし、評価に関する共通理解を図る。 A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回 E：2回未満	B	教科によってばらつきはあるが、年4～7回実施している。平均は4.5回であった。	教科会を通して、引き続き評価に関する共通理解を図っていききたい。
	資格取得の推進	資格取得への意欲を持たせる。（資格取得者延べ400名以上） A：400名以上 B：399～350名 C：349～300名 D：299～250名 E：250名未満	B	資格試験を実施している教科は、国語科・英語科・家庭科・商業科で、資格取得者数は353名であった。	1人でも多くの生徒が上位級に挑戦できる教育環境を整備していきたい。
	家庭学習の充実	1日の家庭学習時間を平均2時間以上確保させ、学力の向上を目指す。 A：2時間以上 B：1時間59分～1時間45分 C：1時間44分～1時間30分 D：1時間29分～1時間15分 E：1時間15分未満	A	全校生徒の1日の平均時間は、2時間34分であった。年次別に見ると、1年次が2時間19分、2年次が2時間54分、3年次が2時間29分であった。	今年度から考査期間中の調査に変更した。普段の日についても、課題を出したり、声掛けを行うなど家庭学習時間の確保に努めていきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	皆勤率70%以上を目指す。 A：70%以上 B：69～65% C：64～60% D：59～55% E：55%未満	E	2学期末までの皆勤率 88人 / 217人 40.6% 1年次 26人 2年次 31人 3年次 31人	基本的生活習慣を身に付けさせるよう指導すると同時に、日頃から体調を整え元気に登校できるよう呼び掛けていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	学校安全の推進	防災退避訓練では、人命第一の避難と安否確認をすみやかに行う。	A	予告なしで詳細を知らせず実施したが、迅速な避難をすることができた。	けが人が出たことを想定するなど、実践的な訓練を行っていききたい。
		本人の不注意による交通事故発生件数0件を目指す。 A：0件 B：1～5件 C：6～10件 D：11～15件 E：16件以上	B	自転車を押していてつまづく1件 ペダルを踏み外し転倒1件 自転車で電柱に衝突1件 トラックと衝突1件 車と接触1件 計5件	引き続き、定期的な交通安全指導を実施し交通事故防止に取り組むと同時に、HR活動等を活用し、交通安全意識の高揚を図りたい。
年次	ホームルーム経営の充実	クラスの連帯感や生徒間の人間関係の構築を促し、誰もが安心できる学級づくりを目指す。(個人面談各学期2回以上) A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	A	全クラス6回以上の個人面談を実施し、クラスの連帯感や人間関係の構築を促すことができた。	生徒が安心して学校生活を送ることができるように、生徒の様子に気を配り、必要に応じて面接を実施していききたい。
特別活動	学校行事・生徒会活動等の活性化	学校行事満足度90%以上を目指す。 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	生徒・保護者の評価から4または5の評価は約94%であり、高い評価をいただいた。	生徒が主体となって活動できるよう引き続き学校行事を盛り上げていききたい。
	体験的学習への意欲的取組	ボランティア活動認定者80名以上を目指す。 A：80名以上 B：79～70名 C：69～50名 D：49～40名 E：40名未満	A	認定者は95名であり、ボランティア活動に対する高い意識が伺える。	引き続き、奉仕・福祉の心を育て意識の高揚を図りたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	A	1年次は98.6%、2年次は88.7%、3年次は86.4%であり、全体で91%の加入率であった。	部活動を通して、充実した学校生活が送れるよう活発に取り組んでいききたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	部活動の活性化	県総体出場部活動数（運動部）80%以上を目指す。 A：80%以上 B：79～70% C：69～60% D：59～50% E：50%未満	A	11の部活動中10の部活動が出場を果たした。	来年度から南予地区予選がなくなるため、目標を違った形で設定していきたい。
		県高文祭出場部活動数（文化部）80%以上を目指す。 A：80%以上 B：79～70% C：69～60% D：59～50% E：50%未満	B	4つの部活動中3つの部活動が出場または出展した。	来年度から、合同（八幡浜・工業・八幡浜・川之石）での活動について考慮しながらより多くの出場者・出展数を増やしていきたい。
進路指導	生徒の進路実現の達成	生徒の進路実現において、進路決定100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85% E：85%未満	B	現在、国公立大学の受験に備えている生徒が2名いる。その他は進路先を決定している。	チャレンジする生徒がいると評価が下がるという数値設定の検討をしたい。
	ガイダンス機能の充実	進路説明会やガイダンスなどで上級学校や企業からの講師を積極的に招き、進路に対する意識を高める。参加する企業または学校の数が A：50以上 B：49～40 C：39～30 D：29～20 E：20未満	A	6月の進路説明会、1月の合同説明会の他に地元企業に対するインタビューシップを開催した。そのため参加する企業または学校数は66となった。	来年度は生徒数は減少するが、体験的な活動は確保したい。
		面接試験・小論文試験等における傾向と対策を研究し、指導内容の充実を図る。	A	今年度は、四年制大学への進学希望者が多かったが、それぞれの進路先に向け、個別指導ができた。	生徒の進路先に応じて、多くの教員で指導に当たりたい。
	情報提供の充実	進路情報の文書配布や広報活動を通して、生徒・保護者に情報を提供する。	A	学校に送られてくる資料については、配布、掲示を行った。求人票については2年次生から閲覧可能とした。	資料の提示方法は工夫していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同教	人権啓発の推進	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会、「人権だより」などを通して人権尊重の意識高揚を図る。	C	人権委員会を中心に、人権問題への理解を深め、ホームルーム活動などで学習に意欲的に取り組む様子がみられた。	ホームルーム活動や「人権だより」発行のほか、人権意識の高揚をめざす活動を継続して取り組みたい。
教育相談	教育相談体制の充実	「教育相談だより」を年4回以上発行し、生徒及び保護者への相談体制の周知を図る。 A：4回以上 B：3回 C：2回 D：1回 E：0回	B	目標の4回の発行にはいたらなかったが、内容はその時期に起こった問題を取り上げた。4月には準SCが新入生全員への面談を行い、その後も担任と連携し必要な生徒は面談を継続した。	発行の時期を年度当初に打ち合わせて決めておく。1年次生全員との面談にはかなり効果を感じたので、来年度も継続したい。（新2・3年次生の個人面談を実施予定）
	生徒のニーズの把握と支援	生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた支援の充実を図る。	C	教職員の協力のもと、実態把握はできた。支援は継続してよりよい方法を探す必要がある。	支援学校のセンター的機能を積極的に利用したい。
情報・図書・研修	校内LAN及びコンピュータの適切な利用促進	情報セキュリティに関する研修又は情報提供を年間5回以上行い、適切な利用の促進を図る。 A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回 E：1回	A	2学期中旬までに5回実施した。早い段階で啓発ができた。	今年度同様の実施ができるよう計画したい。
	ホームページの充実	ホームページに年間200以上の記事をあげ、魅力あるホームページの作成に努める。 A：200以上 B：199～180 C：179～160 D：159～140 E：140未満	B	3/11(水)現在で183回の更新部活動(特に運動部)の大会参加が減ったのが原因の一つと考える。開校日数が190日あまりであることを考えると必要十分な更新回数であるとする。	総体予選や1年次の活動がなくなるため、さらに減ると思われるが、今年度同様のペースで更新していきたい。
	校内研修の充実	研修会又は情報提供を年間8回実施し、相互研修に努め指導力の向上を図る。 A：8回以上 B：7回 C：6回 D：5回 E：5回未満	A	校内研究授業および授業研究会8回(基礎研修を含む)、教育実習生の研修・研究授業および授業研究会、ICTを利用した授業改善についてのWS、思考力を育成する授業についてのWS、人・同、教相、生徒指導に係る研修会を実施した。	業務削減のための生成AIに関するWSだけでなく、授業に取り入れる提案も行っていきたい。
業務改善	職場環境の改善	業務の効率化により時間を有効活用することで、教職員間でのコミュニケーションを促進し、心理的、身体的負担の軽減を図る。	A	ペーパーレス化の推進、行事・会議の実施内容の精選を行う等の、時間の有効活用に向けた取り組みにより、日常的な教職員同士の情報共有がスムーズになり、心理的・身体的なゆとりが生まれた。	校務支援システムの利用により情報共有の時間短縮、報告業務の簡略化等によりコミュニケーションの機会を増加させ心理的負担の軽減を図りたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。